

カラマツ林業等研究会設立40周年記念シンポジウムの開催

【技術普及課】

1月8日、塩尻市のレザンホールにおいて、カラマツ林業等研究会の記念シンポジウムを開催しました。

研究会では、長野県及び長野県林業総合センター、信州大学農学部、中部森林管理局が構成員となり、カラマツを中心とする長野県の森林・林業の発展に向けた研究発表会を毎年開催し、産・学・官で進めてきた研究成果が報告され、中部森林管理局も発表を行ってきました。

設立40年を迎えた今回は、木と関わる交流の場を作ってきた「木と文化の環境フォーラム」との共催で記念シンポジウムを行うこととなり、県内各地から180名が参加しました。

シンポジウムでは最初に、カラマツ林の面積が日本一の北海道において、カラマツの有効利用を進めている北海道林産試験場から2名の研究者を迎えて、「北海道におけるカラマツの川上から川下までの取組」と題し基調講演が行われました。続いて、長野県内でカラマツ材の利用開発に関わる三名の方から取組の報告が行われ、その後、発表者五名をパネリストとして、会場からの質疑を受ける形で、今後のカラマツ林業の展開について議論が進められました。



パネルディスカッションの様子

森林総合監理士による先進地視察を開催

【技術普及課】

2月18日～19日、中部森林管理局管内の森林総合監理士8名による先進地視察を開催しました。

この視察は、森林総合監理士としての礎である技術力、構想力、合意形成力を十分に発揮するための知見を深めることを目的としたものです。

初日は、群馬県甘楽郡下仁田町の小井土製材株式会社で、地域材を利用した2×4(ツーバイフォー)材等の様々な製材製品を作る様子を視察しました。社長からは、製材製品を多様化することで、売り先を多くし、それによってリスク軽減を図っている

ことなどについて詳しくお話をいただきました。

その後、利根郡川場村で「川場村グリーンバリュープログラム」の森林コンビナート構想についての説明を伺い、また、翌日は現地を視察しました。参加者からは、「過疎化が進む農山村における活性化モデルとしてとても参考になった」という感想がありました。

最後に、関東森林管理局において、森林共同施業団地の取組についての説明を受けて両局の森林総合監理士による意見交換会を行い、中部局とは違う民国連携活動や人材育成について貴重な知見を得ることが出来ました。

今後も先進事例地等の視察を通じ森林総合監理士のスキルアップに努めてまいります。



小井土製材社長から
2×4材の説明を聞く様子